

死にし妻を悲傷ぶる歌一首 并せて短歌

四二三六番

天地の神はなかれや 愛しき 我が妻離る
光る神 鳴りはた娘子 携はり 共にあらむと
思ひしに 心違ひぬ 言はむすべ せむすべ知
らに 木綿だすき 肩に取り掛け 倭文幣を 手
に取り持ちて な放けそと 我は祈れど まきて
寝し 妹が手本は 雲にたなびく

反歌一首

四二三七番

現にと 思ひてしかも 夢のみに 手本まき寝と
見ればすべなし